

北海道支部活動報告
「日本木材学会北海道支部 第 52 回研究発表会」

北海道支部常任理事 澤田圭（北大院農）、伊佐治信一、北橋善範（道総研林産試）

北海道支部では毎年 5 月下旬～6 月上旬に研究会、10 月下旬～11 月上旬に研究発表会を開催しています。研究発表会は札幌と旭川で開催しており、1 年ごとに開催地を変えています。今年は旭川開催を予定しておりました。

しかし新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、研究発表会を例年通りの対面式で実施することが難しくなりました。そこで執行部で検討を行い、発表者が直接質疑応答する機会を持てるように、発表会場を札幌会場と旭川会場の 2 会場として、発表者はどちらかの会場で発表することとしました。ただし会場内での密集を避けるために、会場に入室するのは少数として、発表は Zoom を使ったオンライン配信としました。発表に対する質疑は、会場内で直接か、チャット入力して、発表後に回答する形式を採ることとしました。

そして 11 月 4 日に札幌会場を北海道大学農学部、旭川会場を北海道立総合研究機構林産試験場として、日本木材学会北海道支部第 52 回研究発表会を開催しました。北海道支部代表の佐野雄三教授による開会の挨拶から始まり、日本木材学会会長の船田良教授からご挨拶を頂いた後、口頭発表が行われました。今年は 3 機関から 16 題の研究発表があり、研究成果の報告と活発な議論が交わされました。札幌会場の参加者は開会時 13 名、旭川会場は 7 名、Zoom のアクセス数は 45 件で、研究室で 1 台のパソコン画面を複数人が視聴していたケースもあったと聞きました。発表内容につきましては当支部 HP (<http://www.agr.hokudai.ac.jp/wrsh/>) にて公開しておりますので、そちらをご覧ください。

このような発表会の形式は初めてであり、事前に何度か予行練習を行いました。質疑と座長の声が聞こえづらかったり、ハウリングが生じたりと問題点も残りました。またチャットでの質問は質問内容が分かりやすいとのご意見も頂きました。スマートな運営とまではいきませんが、まずは無事に閉会することができ安堵しております。

最後に研究発表会で使用しました Zoom は、日本木材学会の Zoom アカウントを使わせて頂きました。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。



写真 1 札幌会場



写真 2 旭川会場